

ところざわ倶楽部

野老澤の歴史をたのしむ会

## 活動報告「明治大学博物館から湯島天神への散策」

2024-6-6 中村静子 記

- 実施日 令和6年(2024)6月6日(木) 晴れ、南風、最高気温26°C
- 明治大学博物館 昼食(明大学生食堂) 湯島聖堂 神田明神 湯島天神  
(注) 湯島天神で解散、その後は各人・グループで自由散策
- 参加者 28名
- コース概要 所沢駅集合9:10⇒池袋駅⇒御茶ノ水駅⇒明治大学博物館⇒湯島聖堂⇒神田明神⇒湯島天神

当会の明治大学博物館界隈の散策は、1回目は平成23年、2回目は平成30年に実施しております。前回2回目の参加者は8名でしたが、今回は28名の方が参加されましたので、博物館の見学は2班に分け、ガイドさんの説明を聞きました。

明治大学博物館は、商品博物館、刑事博物館、考古学博物館に分かれていた施設を統合し、明治大学の資料も加えて現在に至っています。

考古学部門の展示は、日本列島における旧石器時代の存在を初めて証明した岩宿遺跡の出土品をはじめ、旧石器集落を明らかにした砂川遺跡の他、縄文時代、弥生時代、古墳時代などが展示されています。



考古学部門での出土品の説明を聞いた後、刑事部門での説明を受けました。刑事部門では、御成敗式目、今川仮名目録など著名な刑法典の数々をはじめ、長柄三道具や十手・取り縄など江戸時代の捕者道具と、取調べの過程で使用された拷問具、刑罰具や近代の死刑具、更には海外の刑罰具などの展示がありました。商品部門では、陶磁器、漆器、染織品などの伝統的工芸品が陳列されており、卓越した職人技と地域色に価値付けされた、少量・多品種による高付加価値商品としての現状を展示していました。これらの展示品は、ガイドさんの丁寧な説明で一段と興味深く拝見することが出来ました。

特別展示室Iでは、NHK連続テレビ小説「虎に翼」展が開催されており、明治大学出身で日本初の弁護士となった三淵嘉子の足跡を辿ることが出来ました。

また、日本の放送作家・詩人・作詞家として有名な阿久悠の記念館も併設されており、短時間ではありましたが、こちらもその業績を辿ることが出来ました。

博物館見学の後、明治大学のリバティータワーに移動し、17階にある「スカイラウンジ」で、12時から昼食を頂きました。カツカレーやタンメン等、皆さまお好きなものを戴き、しばし休養を取って次の見学に備えて英気を養いました。

昼食後は、湯島聖堂を見学しました。湯島聖堂は、上野の林羅山の邸宅にあった孔子廟を徳川綱吉がこの地に移し、その規模を拡大して官学の府としたのが始まりです。11代家斉の時代に、さらに規模を拡大して「昌平坂学問所」を開設。関東大震災ですべて焼失し、現在のものは、昭和10年に再建されたもので、祀られている孔子像は、朱舜水が亡命時に携えてきたものを、大正天皇に献上され、それを下賜されたものです。如何にも学問の聖地という堂々とした佇まいでした。



湯島聖堂の見学を終え、神田明神を見学しました。こちらの主祭神は大己貴命、少彦名命、平将門命で、神田、日本橋、秋葉原、大手町、丸の内、旧神田市場など108町会の総氏神です。

門前には名物の甘酒屋があり、参拝の後は、甘酒を楽しむ人、お土産を購入する人等それぞれの時間を過ごしました。

神田明神を後にして、最後の散策場所である湯島天神を訪れました。梅花の季節ではありませんが、社殿の庭は青葉が青々と美しく、心洗われる気持ちになりました。

湯島天神は雄略天皇2年に天之手力雄命を奉斎し、勅命により創建されたとされています。現在の社殿は総檜造りで平成7年に造営されています。

湯島天神見学の後、解散となり、その後は自由散策となりました。初夏のひと時、都心で様々な時代の歴史を楽しむことが出来ました。

(明治大学博物館の記述については明治大学博物館展覧会案内2024を参照しました)

担当B班 福本健一、三島昭雄、梅津博紀、中村静子